

2019 年度 事務事業評価(2018年度実施事業事後評価)シート / 2020 年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報										整理番号	005					
事務事業名	交通対策経費	補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている () 年度まで <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	02	項	01	目	06	事業	03
担当部	総務部	担当課	行政経営課	担当係	行政経営係											
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input checked="" type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称 :)										根拠法令及び市条例等	<input checked="" type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称 : 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称 :) <input type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称 :)				

2 事務事業の目的		①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。	
現状課題	本市の交通体系は、南北に市民の足として重要な関東鉄道常総線が走り、路線バスも5路線運行している。交通空白地帯の解消と、それらを補完するものとして、予約型乗合交通ふれあい号を運行している。しかし、「じょうそう未来創生プラン」における市民アンケート結果では、公共交通機関に対する市民満足度は低い結果であった。なお、ふれあい号は利用登録することで、1人で乗車できる市民が利用可能で、利用者の80%以上が70歳以上の年齢の方で占められている。	誰・何を対象に	市民
		どのような方法・手順で	予約型乗合交通の充実や路線バスの維持、鉄道利用の充実と近隣市町との連携を図り本域内公共交通の維持を図る。
		望ましい状態	本市の地勢を考慮し、民間の公共交通と連携した、真に利用したい人が将来的に安定して利用できる持続可能な公共交通の確保が必要である。そのため、高齢者にも気軽に利用していただける公共交通の在り方を事業者と共に目指し、適正な受益の負担を求めるとともに、持続可能な仕組みの構築を目指す。

3 事務事業の主たる成果指標										④ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。						
指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者数	単位	人	目標値	100	目標年次	2020	年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	関東鉄道常総線を軸とした公共交通体系を充実させるため、民間の路線バスの運行を維持できるようタクシー事業者と連携し、予約型乗合交通の利便性の向上を図る。そのため、利用者数が多かった平成23、24年度の実績値とする。						

4 事務事業の実績 ⑤										⑥ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。											
年度	2016年度			2017年度			2018年度														
	業務名	活動量		業務名	活動量		業務名	活動量													
事務事業を構成する主な業務	① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	3回 240日		① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 241日		① 常総市公共交通活性化協議会の開催 ・予約型乗り合い交通ふれあい号の運行	2回 240日													
	② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線ガイドブックの作成	3回 5,000部		② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線PRプロダクトツアーの開催	3回 1回		② ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会へ出席 ・関鉄沿線Instagramツアーの開催	3回 1回													
	③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	6回		③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	5,000部		③ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	1回													
	④ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	3回		④ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	7回		④ 地下鉄8号線建設促進並びに誘致期成同盟会への出席	50,000部													
	⑤ 茨城県公共交通活性化会議への出席	1回		⑤ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	4回		⑤ 東京直結鉄道誘致促進協議会及び東西縦断道路建設協議会への出席	1回													
	⑥ バス運行対策協議会への出席	3回		⑥ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回		⑥ 茨城県公共交通活性化会議への出席	2回													
	⑦ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回		⑦ バス運行対策協議会への出席	3回		⑦ バス運行対策協議会への出席	3回													
	⑧ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回		⑧ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回		⑧ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金の支払い	1回													
	⑨ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回		⑨ 第41回都市計画セミナーへの参加	1回		⑨ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回													
		⑩ 茨城空港利用促進等協議会への出席	1回		⑩ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回		⑩ つくばエクスプレス等整備促進期成同盟会	2回												
	目標値に対する実績値	84	人	目標値に対する実績値	82	人	目標値に対する実績値	87	人												
決算額	計	36,000,836 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	36,000,836 円	計	38,305,508 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	38,305,508 円	計	38,547,477 円	内訳	特定財源	0 円	一般財源	38,547,477 円
		(住民一人あたりの行政コスト)	592 円		(住民一人あたりの行政コスト)	634 円		(住民一人あたりの行政コスト)	643 円												

5 担当者評価 ⑦		⑧ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。	
成果	利用者の利便性の向上を図るため、昨年1月から利用券の車内販売を開始した。その効果から、今年度の利用者数は、事業者が廃業し車両が1台減少したにも関わらず、前年度を上回った。また、利用者の声を聴き改善策を探すため昨年9月にアンケートを実施したが、利用券の車内販売は、非常に好評という結果が示された。さらに公共交通の啓発を目的に県補助制度を活用して公共交通ガイドを作成し、全戸配布を行った。数値目標の達成には至らなかったが、利用者数増加から一定の効果があった。	問題点	問題点として、利用者アンケートにおいて利用者の8割が70歳以上の高齢者であることもあり、全6台中3台導入のワゴン車の乗り降りがしにくいという意見があった。乗合率が1.8人ということも鑑み、全車両をセダン車にすることで利用者のサービス向上を図りたいと考える。また、地域公共交通の基本的な考え方は、既存の民間公共交通機関を維持・保全・活性化させることが最優先であり、行政が主導的に行う公共交通の事業は、あくまでも民間交通事業者を補完する立場で行うものであることから、市民への啓発活動も引き続き実施していく。

6 担当部長及び担当課長評価 ⑨		⑩ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。	
事務事業の方向性			
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止			
本市の公共交通は決して充分とは言えないため、民間の公共交通を補完する目的でふれあい号を運行している。昨年度は新たな利用者への周知のため、公共交通ガイドを作成した。また、既存利用者の利便性向上を目指し、車内販売を実施し、アンケートを行い声を聴いた。その効果もあり、前年度比利用者が増加したという一定の効果が出ている。今後ともアンケート等で利用者の声を聴き、利便性の向上に努めていく。なお、導入当初から利用料金の見直しが行われていないため、受益者負担の観点から、また、ふれあい号事業を持続していくためにも利用料金の適正化を図ってまいりたい。			

7 実施計画 ⑪										⑫ 今後3年間の事業内容について、どのようなことをどの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の『歳出の計』と『歳入の計』は一致させてください。									
年度	2019年度			2020年度			2021年度												
事業内容	●予約型乗合交通ふれあい号の予約システム更新・改修 ●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ・事業者会議の開催 ・予約オペレーターとの意見交換会 ・チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ・予約システムの維持管理 ・料金の見直しについて、周知、意見徴収、活性化協議会への提案 ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ・本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ・地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ・県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ・今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ・駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ・延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ・新駅設置の要望活動			●成果指標の見直し(2021年～) ●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ・事業者会議の開催 ・予約オペレーターとの意見交換会 ・チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ・予約システムの維持管理 ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ・本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ・地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ・県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ・今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ・駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ・延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ・新駅設置の要望活動			●市民の足として予約型乗合交通ふれあい号を運行 ・1回250円、1日9便、市内の移動手段 ・事業者会議の開催 ・予約オペレーターとの意見交換会 ・チケットの販売、新規登録者の受付、利便性の改善 ・予約システムの維持管理 ●常総市公共交通活性化協議会の開催 ・本市の公共交通全体の事業の進捗管理 ●国への補助申請 ・地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請 ●茨城県公共交通活性化会議への出席と要望 ・県の補助制度及び事業内容について研修 ●公共交通の広域連携事業の検討 ・今後の広域連携事業の検討、推進 ●常総線沿線のPR及び関鉄イベントへの協賛 ・駅からウォーク、ビール列車への協力 ●地下鉄8号線建設促進会の総会、幹事会への出席 ・延伸の推進と要望活動 ●東北新幹線新駅設置にかかる検討会への出席 ・新駅設置の要望活動												
	成果指標	指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者数	単位	人	目標値	100	指標名	予約型乗合交通の一日の平均利用者数	単位	人	目標値	100	指標名	前年度の評価を踏まえ新たな指標での評価	単位		目標値	
	予算額	歳出	計			44,059 千円		歳出	計			38,000 千円		歳出	計			38,000 千円	
			特定財源			0 千円			特定財源						特定財源				
		歳入	一般財源			44,059 千円		歳入	一般財源			38,000 千円		歳入	一般財源			38,000 千円	
			計			44,059 千円			計			38,000 千円			計			38,000 千円	

8 財務アドバイザーの見解	
『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いと判断された。2018年度の一般財源決算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。	

9 行政改革懇談会(市民)の意見	
担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。ただし、近年高齢者の事故が増えており、公共交通の重要性が増している。ふれあい号の運行便数の増や市内巡回バスの導入などさらなる事業の充実を要望する。	

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑬	
事務事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
評価理由	ふれあい号の利便性拡大についても引き続き取り組むこと。なお、ふれあい号も運行を開始してから10年が経過したことを踏まえ、まちづくりの方向性も視野に入れた地域公共交通全般のあり方や考え方について検討してもらいたい。

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ⑭		⑮ 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。	
事業内容			